

2008年9月16日  
農事組合法人庄内協同ファーム  
米部会長 野口 吉男

- 稲の収穫にあたって -

さわやかな秋風の吹く季節になりまもなく稲の収穫時期をむかえ、私たちファームの生産者も収穫準備に追われています。

今年も日本各地では、大雨になったり地震があったりと極端な事象が多すぎるようです。庄内地方も、春先はよい天気恵まれましたが、5月中旬田植後の冷たい風の影響で一時、苗が黄色く枯れたようになり、田植後の緑一面の景色がしばらく見られず、1週間ぐらいの生育の遅れになってしまいました。その後天気は、回復して6月、7月は雨もほとんど降らずに適度の気温の日が続き生育も3、4日の遅れまで回復しました。

しかし、8月に入り出穂が始まり稲にとって大切な時期となったが雨が降り気温も下がり、晴れば急に気温が高くなるという天気で、稲の病気と受粉への影響が心配されましたが何とか乗り切り、現在は穂が傾いて黄金色になってきました。早ければもう1週間ぐらいで刈り取り作業に入れるかと思っています。



連日の汚染米流通の報道で、食に対する信頼が薄れている現在、生産者として安心、安全な農産物を作りお届けする事が、これから益々問われてくるのだと感じています。

9月12日に米部会で生産者の圃場を巡回しました。春から計画に沿って有機栽培や(認証機関の監査済)、農薬を減らし有機肥料だけで栽培(減無栽培)したり、除草対策にカモ、除草機、紙マルチを使用したりしながら頑張ってきた結果、全体的によい稲姿をしており、美味しく、粒張りの良い米になると期待できます。



2008年9月12日  
農事組合法人庄内協同ファーム  
事業管理部長 白澤吉博

さわやかな好季節をむかえ、朝の空気に爽秋の気配が感じられる頃となりました。田んぼの稲穂も日一日と黄金色に色づき平野を吹きぬける風に穂波のようにゆれています。

さて、2008年産のお米の生育は、初夏から7月中旬まで雨量が平年の6割くらいしかなく生育を心配していましたが7月後半には回復し8月中旬では生育の回復がみられました。ほっとするも8月中旬に局所的な集中豪雨が発生し、一部の地域では田んぼまで冠水した圃場もあり、出穂のおそかった品種で穂まで冠水した圃場は影響があるだろうかと心配もされています。

その後、8月中旬以降は雨と曇り天候が多かったものの、9月に入り穏やかな天候がつづいています。平野全般の水稲作柄の傾向は出穂のばらつきがややあり、穂数・籾数は平年並ですが登熟のすすみが緩慢で登熟の揃いもややよくないようです。そのために収穫期も数日のおくれとなる予定です。

収穫まで、もうすぐです。田んぼの観察をかかさず水管理、刈り取り適期に注意して品質のよいお米に仕上げたいと思います。よろしく、お取り扱いを下さいますようお願い致します。

